

# 四国中央市について



- 愛媛県の東端部
- 香川県徳島県高知県と4県が接する地域
- 1市=1二次医療圏
- 人口: 90,596人  
高齡化率29.0%  
市動態調査 平成27年5月31日現在
- 総世帯数: 34,951世帯  
うち高齡夫婦世帯数4,377世帯  
うち高齡単身世帯数3,527世帯  
高齡者夫婦単身世帯数22.6%  
※平成22年国勢調査

# 四国中央病院と三島医療センターの機能

(本院)

(分院)

## 四国中央病院

(常勤医師数:29名)

- 急性期病床 229床  
(内DPC185床)  
一般病棟入院基本料1  
(7対1)
- 精神科病床 46床  
精神病棟入院基本料3  
(15対1)

## 三島医療センター

(常勤医師数:1名)

- 急性期病床 70床  
(休床中)  
一般病棟入院基本料3  
(13対1)平成27年3月まで
- 外来診療のみ

地方中小病院における  
医師確保策について

当院における  
医師招聘策

当院における  
若手外科医の  
教育方針

# 当院における医師招聘策

1

寄附講座

2

高額医療器械の整備

3

職域事業研究

4

海外留学資金支援制度

5

給料の改善

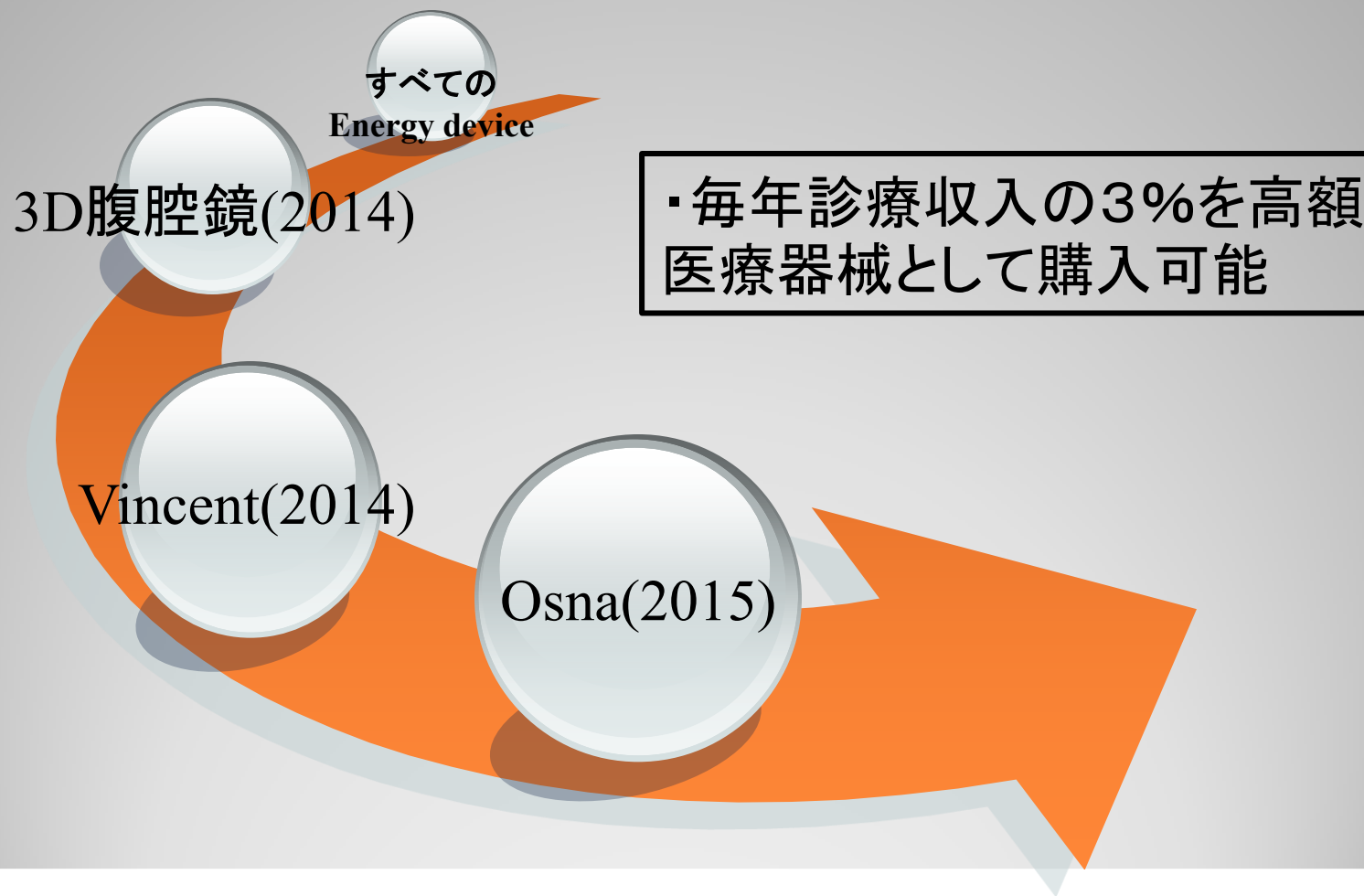
6

定年の延長

# 寄 附 講 座



# 当院一般外科の高額医療器械の整備



# 科学研究費

当院の臨床研究センターは文部科学省の研究機関になりました(平成28年2月)

当院常勤医

希望者

研究者登録

文部科学省  
日本学術振興会

- 基盤研究:500万円以下~2億円程度
- 挑戦的萌芽研究:500万円以下
- 若手研究:500万円以下~1億円程度
- 研究活動スタート支援:500万円以下
- 奨励研究など

申請

科研費

- 臨床研究
- 基礎研究
- 大学との  
共同研究など

# 職域事業研究

公立学校共済  
組合 本部

全国の8つの  
公立学校共済  
組合病院に対  
してそれぞれ  
1000万円の研  
究費を支給

H26年度から  
市中病院でも  
臨床研究が可  
能となった



# 医師海外留学資金支援制度

・下記の医師に**300万円**を貸与

1

当院に勤務または他院に勤務している

2

大学教授の推薦状あり

3

帰国後、当院での勤務1年ごとに100万円の貸付金を免除する

# 給料の改善

地方なのに都会と給料が同じ!!

卒後10年目

卒後15年目

卒後20年目

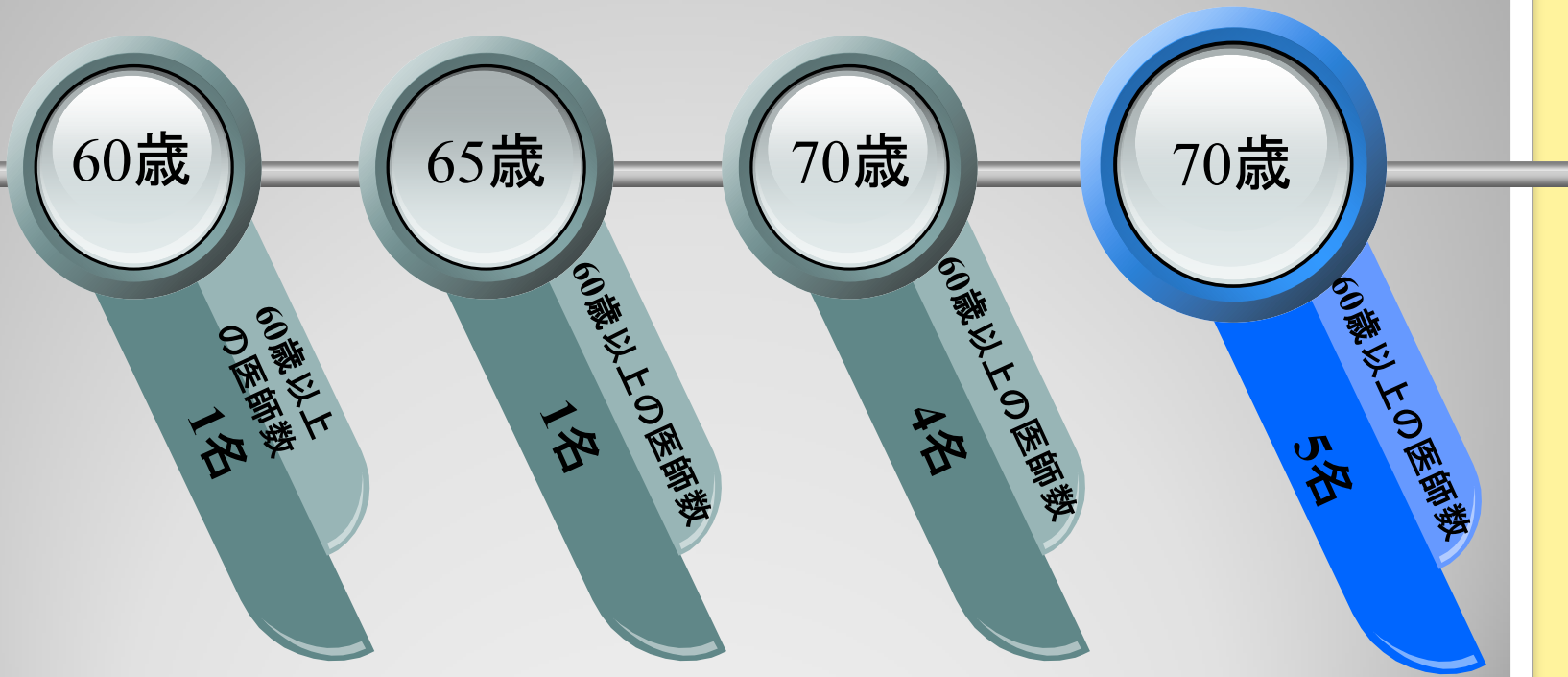
年収 1480万

年収 1660万

年収 1900万

# 定年の延長

S34 → H19 → H24 → H27



# 当院の若手外科医の教育方針

1

丁稚奉公制度の廃止

2

まじめな医師になるよう導く  
責任の取れる行動を教える

3

なるべく多くの術者経験を  
(年間100例以上)

## 結語

1

医師確保、若手医師の指導等  
には初期投資が必要

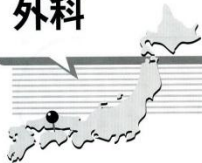
2

医師数の増加が得られるならそ  
れ以上の収益が期待される

3

若手医師に責任感と実力をもた  
らすような教育を施行中

## 公立学校共済組合 四国中央病院 外科



外科スタッフ一同



当院は全8病院の公立学校共済組合直営のなかで、6番目の病院として昭和34年に愛媛県四国中央市に開設されました。その後、愛媛県宇摩地区の敷少ない中核病院として、順次診療科を増設し、現在の18診療科、病床数275床(一般229床、精神46床)となっています。

外科は常勤医5名で日々の診療に当たっており、徳島大学外科学教室の関連施設で若い先生のローテーションを受け入れています。主に消化器外科、小児外科を中心に年間380例ほどの手術症例数で、腹腔鏡手術は100例ほどです。腹腔鏡は原則吊り上げ式にて行い、消化管手術では小切開手術も併用して行っているのが特徴です。

さて、われわれを取り巻く医療環境は大変厳しいものが続しており、地域医療の破綻、とくに医師の地域偏在、診療科偏在による医師不足、さらに看護師不足は深刻です。当院では本年度、院内保育所を設置するなど、可能な限りバリアを減らし、今後とも患者さんや医療従事者にとって魅力ある病院になることを目指したいと思っております。そこで当院が行っている医師、特に若い先生が快適に働けるような工夫を紹介したいと思っております。

まずはじめに、一昨年には医師確保策の一環として徳島大学より内科の寄附講座ができましたが、昨年度は麻酔科、眼科、看護部の寄附講座もできました。特に当院では麻酔科はここ何年間も常勤医がいなく、緊急手術は自家麻酔でしたが、現在では常勤の麻酔科の先生のいることのありがたさを感じています。

高額医療機器の件ですが、当院では医業収益

の数を高額医療機器の購入に充てることができ、病院の規模の割にはかなりすばらしいものがそろっています。さすがにダウリンチはありませんが、3D腹腔鏡は2台あり、Vincentなど手術に必要なものはすべて揃っています。またリンパ節の良悪性判定が可能なOSNA<sup>®</sup>も今年度に購入となりました。

昨年度より、学校共済組合本部から各共済病院に年間1,000万円の職域事業研究費助成金が配布されることになりました。これで科研究費基礎研究(C)程度の研究が当院でも可能となりました。一般病院でも臨床研究をしたい方は当院にお越しく下さい。またこれも本部からですが、当院で働いた、あるいは将来勤務する予定の先生に相当額の留学資金が与えられることになりました。

最後に手術のことですが、当科では若い先生に積極的に術者となってもらっています。術者を若い頃からすることは今でも賛否両論があります。昔から「手術はみてもおれできるようになる」とよく言われました。しかし、術者にならないと技術的な面はもちろんのこと外科医としての胆力が身につかないのは自明の理です。そこで当科では誰にでもやらせるというわけはありませんが、患者をしっかりと診る先生にはたくさん術者になってもらっています。

以上は病院の改善策のほんの1例です。当院では地方で生き残れるモデルケースを目指して頑張っています。

(石川正志・記)

〒799-0193 愛媛県四国中央市川之江町 2233

# (臨床外科 70(9),1135,2015より

公立学校共済組合四国中央病院で働いてみませんか？



公立学校共済組合  
四国中央病院  
(本院)

三島医療センター  
(分院)

